

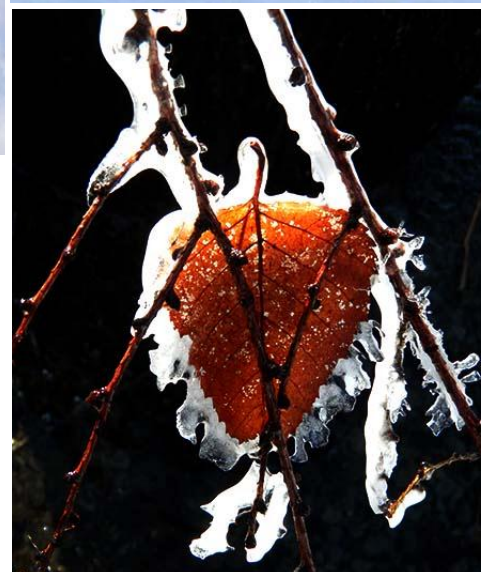
月刊 やちまなこ

2015.1.15 発行

No. 206

1 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



湿原散歩

年が明けた湿原にタンチョウの鳴き声が広がる。川沿いの木は樹氷に姿を変え、川面には蓮氷が流れている光景は冬の湿原そのものだが、足元の雪は昨年末の雨で硬くなり、雪は歩くたびガサガサと音を立てる。その音に驚いたのか、カモが空に舞い上がった瞬間、ドーンといった銃声が何処からか聞こえてきた。

コッタロ川と湿原のほとりから

175 2015年1月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

花びら雪のプレリュードで開け始めた新年、刻一刻と昇り来る初日の出を拝すべく柏手を打ち鳴らし、厳かに東の山を見やると、川沿いに輝く霧氷の帯の彼方から瑞鳥3羽が真一文字で近づき、そのシルエットがたちまち大きくなったかと思うと眼前で着地！スリル満点の真にインシャラー！！よき年になりそうな予感にわくわくさせられましょう？

さても風の翼に乗って瞬く間に過ぎ去った「暴れ馬」年を振り返るとまもなく突入した羊年は早10日を数える今日、思い起こせば師走の爆弾低気圧がもたらした一夜にして50cm余りの積雪が予想せぬ幸運を届けてくれたのも事実で、遅ればせ乍らも堪能出来るクロカンスキーに感謝して“ヤッホーの山彦叫ぶスキー哉”。又、コッタロで撮影することなど不可能な珍鳥2羽の“カシラダカ冬の嵐の置き土産”は、大変貴重な記録となりました。おまけに喜ばせてくれたのがコアカゲラの久々の飛来で、他の7～8羽で群れ遊ぶアカゲラに遠慮しつつも庭のブドウヅルに隠れるようにして捕食しているところをパチリ。丁度コゲラ大で可愛らしい小型の彼の頭頂部の赤が見分けられるのでしょうか？

ところで、庭のバードテーブルを愛用しているのは野鳥ばかりとは云えず、ネズミや貂、狐や狸が夜な夜な出没していることを翌朝新雪が証明してくれるのですよ。中でもキタキツネのキャンシーは昼夜を問わず、一足お先に「お年賀」に訪れて、アッと驚かされたのでした。フサフサのはずの尾っぽの毛が無いではありませんか。御世辞にも“お目出度う”とは云えないありさま。この病的な野生を目の当たりにする度、胸が痛んで仕方ありません。一方、エゾフクロウの福太郎は福の神らしいまん丸顔で我家を守っているらしく“梟の鳴き交わしたる寒夜哉”。



湿原の住人たち その166

ツチグリ

写真は昨年1月下旬にサルガ展望台付近で見つけたツチグリです。冬でもひょっこり顔を出すことがあるんですね。星形の座布団にのった球体の上部は穴が空き、すでに胞子を放出していました。6～20片に裂けるという外皮が、星形に開いていると見つけやすいですが、この外皮で球体を包んでいる時は、径2.5～3.5cm、灰褐色の扁球形になっています。土栗と書くのはそこからきているのでしょうか？聞くとところによると、湿っていると外皮が開くのだとか……。形も生活も不思議な生き物ですね。



連風を揚げました。

自然ふれあい行事「連風を作って揚げよう」を10日に開催しました。当日は日本の風の会会員の菊地利長さんの指導で、今年の干支のイラストや文字などを書いた凧を3枚つなげて完成させました。

早速外で揚げると、新しい年を迎えた湿原の青空に吸い込まれるように、個性あふれる参加者の凧が次々と揚がり、大人も子供も楽しんだ1日でした。



ヒツジの絵がいいね。



自作の凧が揚がり、やったあ～。

つぼっちの塘路周辺うろうろ日記 Vol.78「年末年始の騒乱」

新年あけましておめでとうございます。

今回の年末年始は、自然に振り回された年となりました。昨年12月17日の猛烈な低気圧が塘路でも猛威を振り、強風と湿った降雪によって郷土館やあるこっと周辺の樹木が次々と折れ、塘路地域は20時間に亘って停電しました。そして年が明けた1月6日には雨が降り、翌朝には道路が氷で覆われました。この辺りでは年末年始頃に雨が降ることがたまにあるのですが、昨年的大雪が雨で溶けだしたため、酷い状態になっています。

一方で塘路湖上の氷は、平坦にそして滑らかになっており、まさにスケートリンクの状態です。かつて冬の塘路湖ではスケートリンクが作られ利用されていましたが、その再現のようです。塘路湖冬の風物詩“ワカサギ釣り”に来られる方は、ぜひ足元対策を十分にしてください。

坪岡 始（標茶町郷土館学芸員）



